

流行りのキャンプを体験 あいの沢で「いいたてキャンプ」

10月1日から2日にかけて、あいの沢オートキャンプ場で『いいたてキャンプ』が行われました。テント設営や夕食・朝食の準備、薪割り、火起こし、木工体験など、スタッフに教わりながら様々なことを体験した2日間。キャンプの体験だけでなく、木や森について学ぶ時間も設けられました。

定番のバーベキューの他に、ポップコーンやラーメンを調理したり、木工体験では箸やキーホルダーを制作したりと、楽しいプログラムが盛り込まれ、笑顔あふれるキャンプ体験となりました。



幅広い世代から17人が参加。共同生活を通して絆や協調性を育む貴重な体験となりました。

わくわく農業体験塾 サツマイモを収穫したよ!



収穫作業に夢中になる参加者のみなさん。会話を交わしながら楽しく作業を行いました。

10月17日、『わくわく農業体験塾』の活動拠点となっている深谷地区のほ場で、さつまいも・里芋・白菜などの収穫作業が行われました。昨年から生涯学習課が新たにスタートした本事業では、これまでもキュウリやインゲン、ミニトマトなど、様々な野菜を育て、収穫をしています。この日の参加者は6人で、齊藤次男塾長(深谷)から作業の進め方を教わりながら、熱心に収穫作業を行いました。今後も塾生の意見を取り入れながら活動を続けます。



市町村対抗ソフトボール大会 新ユニフォームで初戦に登場

10月8日、相馬光陽ソフトボール場で、『市町村対抗福島県ソフトボール大会』が幕を開けました。大会初日、飯舘村チームは玉川村チームと対戦。10対0となり大会規定により4回コールドで敗れました。最終回にはツーアウト満塁まで粘りを見せましたが、勝利は来年へ持ち越しとなりました。

今年新調した爽やかなブルーのユニフォームを着た選手たちは、終始笑顔で、仲間同士で声を掛け合いながら、最後まで諦めずに試合に臨んでいました。



雲ひとつない秋晴れの下、チーム一丸となって戦い抜きました。来年の活躍も期待しています。



大会の大トリ競技「4×100メートルリレー」のバトンパス。仲間の想いを乗せたバトンがつながりました。

今年も力いっぱい頑張りました 川俣町と飯舘村の陸上交歓会

9月28日、「いいたてスポーツ公園」陸上競技場で、『川俣町・飯舘村小学生陸上交歓会』が開催されました。秋晴れの空の下、走り幅跳びやソフトボール投げ、1,000メートル走など、様々な競技に全力で取り組む5・6年生の姿がありました。会場には下級生の児童たちも応援に駆け付けました。

閉会式では、実行委員長・小野真教(まさのり)さん(川俣小学校長)が「力いっぱい競技に取り組む姿は素晴らしかったです。それぞれの練習の成果が発揮された大会でした」と講評を述べました。

ふるさとを学ぶ「いいたて学」 稲刈りとハセ掛けを体験

10月7日、佐藤博さん(二枚橋・須萱)の水田で、「いいたて希望の里学園」前期課程の児童たちが稲刈りとハセ掛けを行いました。

当日は1~6年生が黄金色に染まった水田に集合。村民ボランティアから説明を聞き、作業に取りかかりました。ボランティアの方々と一緒に稲を刈ったり、背丈ほどに成長した稲を大事そうに運んだり、地域の方々との交流を通して多くのことを吸収した子どもたち。「できた!」「楽しかった!」と元気な声が飛び交い、貴重な体験を楽しんでいました。

ハセ掛け=稲架(はさ)掛け



5月に自ら田植えを行った水田で、立派に育った稲を刈り、ハセ掛けまでを体験しました。

練習の成果を発揮しました こども園の「運動発表会」

10月15日、「いいたて希望の里学園」体育館で、『令和4年度までの里のこども園運動発表会』が開催されました。今年のスローガンは「みてほしい こんなにできるよ ぼく・わたし」。新型コロナウイルス感染対策のため、3歳未満児と3歳以上児で時間を分け、二部構成で実施しました。

先生や保護者にあたたかく見守られ、これまでたくさん練習してきた種目を、堂々と立派に発表した園児たち。「こんなにできる」姿を見てもらい、またひとつ成長しました。



そら組(5歳児)によるダンス・パラバルーン「We can do it!心をひとつに」を発表しました。